



上川井だより

令和 2年 7月 31日
横浜市立上川井小学校
校長 山崎 真紀子

8月号

型から型破りのすすめ されど世の中は人の心で回る

副校長 佐々木 和美

ものごころつく頃から、私は多くのお稽古事をしていました。物珍しさだけで始めた習い事はほどなく嫌になり、しづしづ通うことになりました。琴や華道、日本舞踊や習字、絵画教室、体操教室と習い事が何か入っている毎日でした。嫌々通うものですから、どれもみな中途半端で、何かものになったかというところの「型」を習得したくらいです。しかしどの先生も「型から入って型から出よ」とおっしゃいました。まずは、徹底的に型を学んだ上で、創造力、発想力を生かして、新たなものを創っていく。型が身につくのはじめて「型を破り」自分の思いを自由に、のびのびと表現することができるようになると教えてもらいました。この言葉は私の生き方の核となっています。稽古の型は、学習では基礎基本に近いと思います。学習の基礎基本の習得においても、しっかり身につけていなければ、次の段階の学習がわからなかったり、いろいろ自分で試してみようと思っても、どうやってよいのか方法が思いつかなかったりします。

目覚ましい科学の進歩、グローバル化の進展や社会構造の急速な変化の中において、私たちの生活様式はめまぐるしく変化しています。政府は新型コロナウイルスの感染拡大を機に、社会全体のデジタル化を進めるためインフラの整備を規定すること。高齢者の方々にスマートフォンなどの使い方を伝える支援員の全国配置もめざしています。学校においても、プログラミング教育やGIGAスクール構想のための準備を行っています。今や社会のあらゆる場所でICTの活用は日常のものとなっています。ICTの活用や学習の基礎基本の力を着実に身につけていくことが、子どもたちの社会を生き抜く力の素地を育み、子どもたちの可能性を広げることになると私は思います。

ただし、どんなに世の中が進歩し時代が変化したとしても、「人の心」の在りようは、千年以上昔から変化していなければ、進歩もしていないと思うのです。古の書物や和歌、俳句に触れても、近代の映画を観ても、家族や人、故郷を想う気持ちや孤独、不安、恐れ等を抱く心の動きは、繊細なものから激しいものまで、今を生きる私たちの「人の心」と変わりません。子どもたちは未来社会において、培った基礎基本の力をさらに発展させ、格段に便利と言われる世の中を生きていきます。だからこそ時代が変わっても、私たちが大切にしなければならないのは、「人の心」であり、謂わば「人の心」が世の中を回すという根本的なことを忘れないよう子どもたちを教育する必要があると思います。

さて、この新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置として、学校では多くの行事や活動が中止、延期、縮小となっています。私は本校に着任して3年目ですが、上川井のまちには本校のためにご尽力くださる地域の方々がたくさんいらっしゃることを存じております。子どもたちの安全安心を見守ってくださる方々、池の管理・掃除、木の剪定をしてくださる方、読み聞かせや書写指導、また学習で使用する地域の材を提供してくださる方、学習ボランティアの方、上小オリンピックでご指導くださる婦人会の方、協力的なおやじの会の皆様方……。今年度はいつものように、お会いして計画を立てたり、子どもたちと関わっていただいたりすることができなくなっていますが、「心と心」はつないだまま、今できる最善の教育活動を行ってまいりたいと思います。

今年の夏休みは2週間ほどに短縮して8月17日（月）から授業を行います。暑い夏も子どもたちは元気に学校へ通ってきます。いつもとは違う夏になりますが、子どもたちとともに教職員も力を尽くしてまいります。変わらずご支援のほどをよろしく願います。